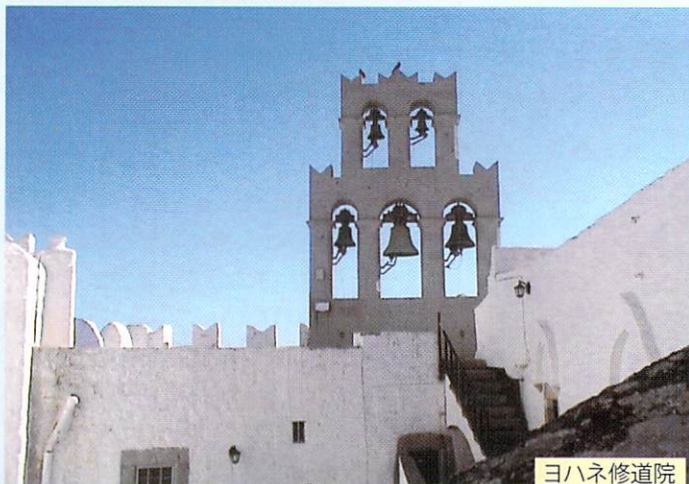


新年明けまして おめでとう ございます

昨年夏、筑豊じん肺訴訟の勝利記念旅行に参加させてもらった。トルコ、ギリシャ、エーゲ海の旅であった。今回は、旅行の日記から一部を紹介させていただきます。

トルコのイスタンブールから始まり、首都アンカラ、世界遺産のカッパドキアなどを経て、エーゲ海クルーズが始まった。深いブルーの海と空に白一色の街並みが強く印象に残った。訪問した島のひとつにロードス島があった。塩野七生の「ロードス島攻防記」の舞台である。ロードス島で「聖ヨハネ騎士団」が設立されて以降、イスラム世界に対してキリスト教世界の最前線に位置するロードス島。コンスタンティノブルを陥落させ、巨大帝国を形成し西進を目指すオスマン・トルコと聖ヨハネ騎士団との壮烈な攻防の舞台であり、古代の遺跡とともに聖ヨハネ騎士団が築いた城壁などが残っている。

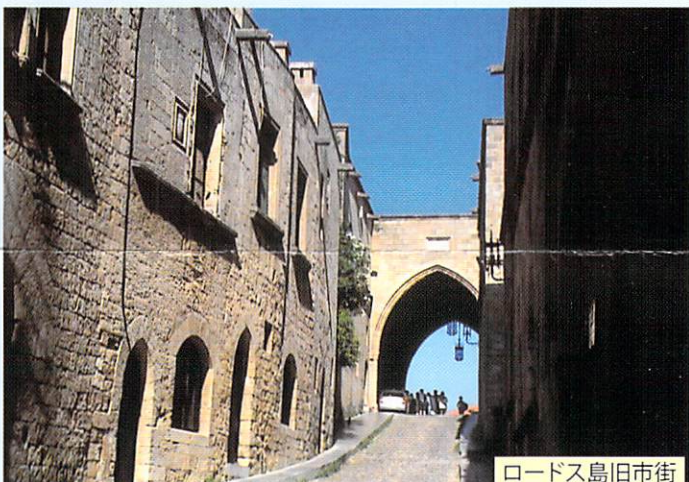
そしてパトモス島（「エーゲ海のエルサレム」と称されている）。聖ヨハネが95年布教の罪でトルコを追放され、流された島である。この島で、聖ヨハネは天啓を受け、黙示録を書いたといわれ、「三位一体」を示す三つの裂け目が残っている（聖ヨハネの洞窟）。洞窟とともに世界遺産に指定されているのがヨハネ修道院である。ギリシアの国旗の青と白とが本当に印象的なエーゲ海の小さな島に残るキリスト教とイスラム教との対立の歴史。パレスチナ問題、湾岸戦争、イラク問題等々、キリスト教とイスラム教、ふたつの宗教、文明の対立の調整をするのが本当に難しい問題であることが実感できた。そして戦争を放棄し、平和を愛する世界の人々の心を信じて「平和主義」を宣言した日本の役割と地位はもっともっと大きくなるまいけないと思った。



ヨハネ修道院



ロードス島聖ヨハネ騎士団の館



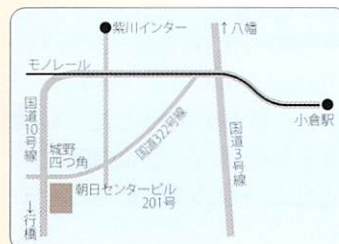
ロードス島旧市街

みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.12

- 発行日 2006年1月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧 啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区
片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



全国で、毎月100を越える会が誕生



2004年6月10日、井上ひさし氏、大江健三郎氏ら9名が呼びかけ人となって、「九条の会」が設立された。「憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます・・・日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」の企てを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を今すぐ始めること訴えます」と高く掲げられた理念に、日本中で賛同がひろがり、2005年11月26日現在で、全国に3614の地域・分野別「会」が結成され、現在も毎月100を超える勢いで広がっているという。

地域ごとの設立のひろがり全国津々浦々に、そして分野別では科学者・研究者、医療関係者、詩人、映画人、スポーツ関係者、宗教者、図書館関係者、農林水産業者等々、そして「戦中生まれの女たち9条の会」や「旅de九条の会」「アマチュア無線九条の会」そして「蓮根の会」（蓮根は穴が9個！9個の穴から未来を見通すという意味だそう）、「あしたの9ジョー」などといった遊び心あるネーミングの「会」も誕生している。

いずれの「会」の呼びかけも、みな一様に「日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ・・・あらゆる努力を今すぐ始める」という九条の会アピールに深く共感し、平和があつてこそ、関係する分野・業種の発展と安寧があることを訴えている。

障害者・患者九条の会は、戦時中、障害者は「殺つぶし」と呼ばれ切り捨てられたこと、そして何より戦争は障害者を大量に作り出すこと、だからこそ9条は「弱いものが生きる権利の保障」だと訴え、音楽九条の会は音楽を通じて9条を護り生かす運動を広げたいと演奏活動を展開し、旅de九条の会では「各国の平和館ガイド」など平和の旅情報を紹介するなど、その特性を存分にいかした活動を展開している。

「平和グッズ」もユニークで、パンフ・リーフ、バッジやストラップはもちろんのこと、「日本酒 九条」や9条の条文を英語とハングル語でプリントした「パスポートカバー」、9条と25条の条文を焼きこんだ九谷焼のカップ、「岡山弁九条絵葉書セット」など、それをまとめて紹介するホームページは盛りだくさん！

市民の挑戦 地域からあがる「9条守ろう」の声



北九州でも学生が「会」を結成

ここ北九州でも、「憲法を守る北九州市民ネット」を中心に2005年9月現在で把握できているだけで28の「九条の会」が活動している。

地域の会は各区にはもちろん校区ごとにも広がり、ほかに年金者組合や国民救援会、医療関係者、うたごえ合唱団、新日本歌人の会、学生・青年などを母体とした「会」が設立されている。



名と平和の歌をうたう活動を続けている。

また「北九州市立大学学生9条の会」は、2005年9月9日

9時に「9条に乾杯！」し、平和な社会をめざしもっともっと勉強し、平和を呼びかけ仲間を増やします！と元気いっぱい！

「九条の会大手町」は、牧師さんのお話し

や、「鳥の歌」のチェロ演奏を堪能しながら、全世界に鳥たちの平和(ピース)平和(ピース)の鳴き声(うたごえ)が響くことを願って、感動的な設立総会となったようである。

そして、市内各地域の九条の会は、小規模でも地域に根ざした学習会や集会、署名活動などを地道に丁寧に、しかし、「いまできることを直ぐに行動に！」と情勢への緊迫感をもって活動している。



こうした北九州の九条の会のまとめ役である「憲法をまもる北九州市民ネット」では、きたる**1月15日**に北九州市内で「九条の会」事務局の一橋大学教授**渡辺治氏**を迎えての**講演会**を予定している。「自民党新憲法草案」の発表を受け、その問題点の解明、今後の運動への示唆を与えてくれる講演会になるだろう。

「九条を守る砦」として広がる九条の会。そこには、海外からも賛同、期待の声が寄せられている。まさにこの国の未来を左右する今、「平和を求める世界の市民と手をつなぎ」、運動を広めていきたい。

「青い空は青いままで子どもに伝えたい」

一母と子で語る昭和といま

小森香子・小森陽一著 五月書房



詩人である母香子から息子陽一が聞き取る形で、戦争と平和、民主主義など昭和史といまを幅広く語りあう一冊。「未来へ

展望のある核兵器廃絶の歌を」と書き上げられた『青い空は』の歌詞に込められた反核・平和、自由、開放、平等、正義、真実への思いが、語られる生き様から迫ってくる。

「高校生からわかる日本国憲法の論点」

伊藤 真著(株)トランスピュー

憲法の根本的な意義・役割、それは「権力に歯止めをかける」こと。学校では

information
information
information

新

鮮

情

報

教えてくれない「憲法学の常識」を高校生にもわかりやすく、かつひとりひとりが自分の頭で考えてほしいと熱く説く。



「北九州市自然環境保全基本計画」

北九州市発行



「都市と自然の共生～都市のなかの自然、自然のなかの都市」の実現を目指して、17年9月に北九州市が発表した自然環境保全基本計画の冊子。

CD合唱と語りによる構成
「平和の旅へ」

語り/日色とも柔

歌/九州「平和の旅へ」合唱団

原爆により16歳で半身不随の障害の身となった長崎の渡辺千恵子さんが、想像を絶する被爆後の肉体的・精神的苦痛の日々を乗り越え、長崎の語り部として車椅子から核兵器



廃絶を訴える「平和の旅」に出かけるようになるまでの半生をつづった合唱と語りによる合唱組曲。

事務所が広くなりました!

今まで2フロア分だった事務所が、ビルの2階部分全部を借り切ってリニューアル!うなぎの寝床のように奥深いつくりになりましたが、1.5倍の広さになり、相談室も4室に増えました。

●みな様からの暮らしの智恵やおもしろ情報、お勤めの書籍など、とどしお寄せ下さい。

「美しきもの」を歌で伝える

シンガーソングライター
横井 久美子さん



国内でコンサートはもとよりベトナム、アイルランド等を訪問し、世界各地の歌を紹介している。又、薬害、公害、差別、平和など「歌を必要とする人のもとに歌を届ける」活動を精力的に行う。CD「私の愛した街、愛した人 横井久美子10年を歌う」「夫へのバラード」「にんげんをかえせ」、DVD「歌にありがとう」、著書「ゆるゆるふっくら」など多数。

昨年6月19日から7月1日まで、筑豊じん肺弁護団より招待を受け、「トルコ・ギリシャツアー」に参加しました。総勢24人、九州のソウソウたる弁護士が参加され、もちろん、この訴訟で活躍された荒牧啓一弁護士もご一緒でした。

私は、1992年、飯塚市で行われた「筑豊じん肺千人集会」に招かれ、はじめて「じん肺」を知りました。戦中、戦後の日本の繁栄を地の底から支え、気がつくと会社は無くなり、山は無くなり、じん肺という治癒することのない病気だけが残った原告たち。私は、その病気のむごさや炭鉱夫をぼろ雑巾のように使い捨て、今は知らんぷりする国や会社にひどく怒りを感じました。そして、「じん肺」の妻たちの気持ちを歌にしたいと思い、「夫へのバラード」を創りました。それ以来、私

は、この歌をずっと歌って、じん肺訴訟を支援してきました。

実は、6月のツアーに参加する直前の3日間、私は、千葉県で「にんげんをかえせ」のレコーディングをしていました。レコーディングがうまくいかなかったら、大好きな九州の先生たちと一緒に、ギリシャやトルコに行けない!という状況でした。

昨年3月29日、東京で初めて原爆症認定訴訟の集会で歌うことになった私は、差別や病苦にさいなまれ、高齢を迎えた被爆者の方たちが集まる場で、何を歌えばいいのだろうと悩んでいました。そして、ずっと心に残っていた峠三吉の「にんげんをかえせ」の詩に「アメージンググレース」のメロディをつけることを、前夜、思い立ったのです。集会后、弁護団から8月6日までにCDにして、集団訴訟を支援して欲しいと依頼されました。私自身の録音は済んだものの、私が荒牧先生たちとエーゲ海クルーズで楽しんでいる間、他のスタッフは、その後も、日夜奮闘し、CDは、7月7日、無事発売できました。

シンガーソングライターである私の仕事は、この国で起きている「事実」を、その「事実」のなかに存在する「美しきもの」を掬いだし、歌という芸術的表現で多くの人に伝えることです。歌というのは、時代を生きた人間の証であり、時代の荒波を乗り越えた魂の叫びです。そういう「魂の歌」を、原告や支援の方々や弁護団と共に作り出し、歌うことができることを私は、音楽家としてとても誇りに思っています。